

23年ぶりの冬渇水

今季の冬はとにかく雨が少なくて、ダム上流域の降水量は平年と比べて、1月は約40%、2月は35%、3月は7%（3月15日現在）と半分以下の降水量となつています。この間も、早明浦ダムは毎日下流域へ水を補給しているため、貯水率もぐんぐん低下しています。このため、徳島県と香川県では2月18日から取水制限が実施されています。このままの少雨傾向が続く、ダムの貯水率が30%程度にまで低下すると、さらに制限を強める必要があります。



この時期に取水制限が実施されるのは、平成11年以来、実に23年ぶりのことで、ダム管理47年の歴史の中では6回しかありません。例年であれば、3月中旬頃より貯水率は徐々に回復し、梅雨が始まる6月上旬には満水に近い状態となりますが、いまだまとまった雨は予想されていないことから、この渇水の状況は続くものと考えられます。水資源機構は今後も、安定した用水供給のため、関係機関と連携し、この渇水に対応していきます。

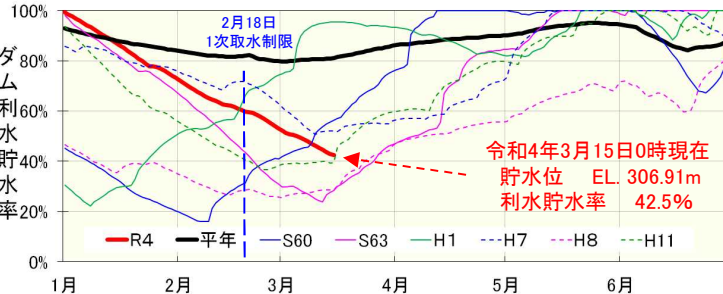


図 冬季取水制限年の貯水率変化

★★最近の出来事★★

ダム下流巡視ルートの確認

ダムから放流する場合は、サイレンやスピーカ放送に加え、河川内に人や車を取り残されていないかを直接巡視し、確認していますが、大雨や台風の場合は、土砂崩れや倒木により、巡視ルートとしている道路が寸断される場合があります。

このような事態に備えて、2月14日に巡視ルート上の土砂災害危険箇所や迂回ルートの確認を行いました。

なお、確認にあたっては国土交通省がインターネットで公開している「重ねるハザードマップ」を活用しました。

災害発生リスク情報を一つの地図上に重ねたもので、様々な防災に役立つので、ぜひご活用ください。



★★お知らせ★★

令和4年度の工事予定について

本年度の工事等の予定は以下のとおりです。工事にあたってはダム堤頂部や周辺道路の通行規制を行います。早明浦ダムを訪れる際には、事前に規制の情報をホームページなどでご確認ください。

工事期間中は、ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

- 〔工事〕
- ・ダムや貯水池周辺での伐採や土砂等の搬出
 - ・ダムのゲート整備
 - ・貯水池進入路の整備（大川村川崎地区）
 - ・早明浦ダム再生事業の工事用道路整備ほか
- 〔業務〕
- ・貯水池、周辺斜面等の状態を把握する調査
水質・環境調査、ダム堤体・斜面観測、貯水池の堆砂量調査
 - ・管理設備の点検や保守

洪水対応演習のためサイレンを鳴らします

毎年洪水期前に実施している洪水対応演習を4月25日(月)・26日(火)の2日間で行います。

このため、吉野川沿いに設置している警報所のスピーカーで「演習」であることを放送した後に、サイレンを鳴らします。実際の放流によるサイレンではありませんのでお間違えないようにお願いします。

なお、大雨の場合は演習を中止することがあります。

★★SDGsの取り組み紹介(1)★★



ダムは洪水からまちを守り、生活に欠かすことのできない水を供給する施設です。その役割等を施設見学会を通じて、皆さんに説明しています。また、学校への出前講座や環境学習会などニーズに合わせた勉強会も実施しています。

今後はダムによるSDGsを学ぶプログラムを実施するなど、さらなる貢献を図ってまいります。



◇希少植物を移植しました。◇

早明浦ダム再生事業では、環境に配慮した事業を進めております。今回は環境保全の取り組みとして、昨冬に実施した※希少植物の移植についてご紹介します。

今後予定している工事を前に影響があると予測した希少植物の一部を今年の1月に工事の影響を受けない場所へ移植しました。

※希少植物とは、法律や条例で保護され、又は環境省レッドリスト、高知県レッドデータブック等に掲載されている希少な種です。

植物の移植は、一般的に植物が一時的に活動を休止している休眠期（主に秋から冬）に実施します。地上部では、葉が落ち、枯れてしまったように見えますが、土の下では、次の春に向けて眠っているような状態です。

今回、移植を行った植物はユキモチソウとゴシヨイチゴです。

移植作業は、地上部、地下茎や球根を傷つけないように慎重に掘取り、移植先の場所へ植え付け、たっぷりと水やりを行います。

また、移植後に順調に育っているか、しばらくの間、経過観察を行います。



写真1 掘取り状況
ふるいを使って慎重に掘取りをします。



写真2 ユキモチソウの球根
1~2cm程の小さな球根

★早明浦ダム周辺のいきものたち(1)

水資源機構では、早明浦ダム周辺の環境調査を実施しており、調査で確認された動物・植物をシリーズで紹介していきます。

今回は上段の記事でも取り上げたゴシヨイチゴとユキモチソウを紹介いたします。

○ゴシヨイチゴ(バラ科)

ゴシヨイチゴは、日本では高知県、愛媛県、山口県、大分県に分布する希少なイチゴ。イチゴといっても高さ2m程に成長する低木です。

山の南向き斜面の明るい林縁部や伐採地に生育し、4月から5月にかけて小さな白い花を咲かせます。果実は名前のとおり木イチゴのような赤い実をつけ、茎にはトゲがあります。

ゴシヨイチゴは、環境省や高知県に指定された非常に希少な植物です。

○ユキモチソウ(サトイモ科)

ユキモチソウは、日本では関西(京都、兵庫、奈良、和歌山)、四国に分布する多年草です。

山地の林下に生育し、4月から5月にかけて特徴的な花を咲かせ、花の真ん中には雪のように白のお餅のような付属体が名前の由来(雪餅草)にもなっています。

ユキモチソウは、高知県の山林では見られますが、環境省や高知県に指定された非常に希少な植物です。



ゴシヨイチゴ



ユキモチソウの花

